

42 ICU(集中治療室)における中心静脈ライン関連血流感染発生率

指標の解説

- 中心静脈ライン関連血流感染(CLABSI)を発症した患者は重症化しやすく、死亡リスクは最大25%に上る。CLABSIのリスクは医療機関、部署、患者の特性に左右されるが、エビデンスレベルが高い予防策を実施すれば、CLABSIの65%~70%は予防可能と推計される。
- 当該感染症はICU入室期間を延長するだけでなく、医療費増大の原因にもなる。
- 発生率の減少は、死亡率の低下及び医療費の抑制につながり、医療の質を問う指標となりえる。

分子: 日本環境感染学会JHAIS委員会のCLABSI判定基準に合致した症例数

分母: ICUにおいて中心静脈カテーテルを挿入した患者の延日数

参考値: 2.2 (対1,000中心ライン使用日数) (分子643/分母293,495)

分子: JHAIS委員会医療器具関連感染サーベイランス事業に参加する病院の集中治療室において、2009年4月から2013年9月までに同委員会のCLABSI判定基準(臨床的敗血症無し)に合致した患者数

分母: ICUにおける、2009年4月から2016年12月までの中心ライン使用日数

(引用元: 日本環境感染学会JHAIS委員会 「医療器具関連感染サーベイランス部門サーベイランス結果報告書 2009年4月~2016年12月データサマリー」)

